

なり星周物質が連星系の近くに溜まり、同時に白色矮星にも一部が降り積もってI型超新星爆発の引金を引く、というような台本は虫が良すぎるでしょうか。いずれにしても、恒星進化のフィニッシュとしての超新星現象を理解するためには、私達の創造力もこれからまだ2回ひ

ねり3回転宙返りくらいしないとイケないのかもしれない。

論文の別刷やプレプリントを送って下さった野本憲一さんに感謝します。

お知らせ

第3回 IAU アジア太平洋地域会議参加申込みについて

上記会議が来る10月1日から6日まで京都国際会館において開催されます。この会議のSecond circularおよび申込み用紙は、当該地域内のIAUメンバーおよび日本天文学会特別会員の方々には2月に発送済です。この会議に関心のある方で、参加申込み用紙の配布を希望される場合は、下記宛に書面で（電話ではなく）御申込み下さい。

〒606 京都市左京区北白川追分町
京都大学理学部宇宙物理学教室
石沢俊亮

山田科学振興財団よりの援助、申込みについて

昭和59年度の研究援助は募集開始59年9月、締切日60年3月31日です。詳細は本誌の10月号か11月号に掲載する予定です。他に下記の援助がありますので申請要領、申請書等御入用の方は直接

〒544 大阪市生野区巽西1丁目8番1号
ロート製薬株式会社内
山田科学振興財団 宛申込み下さい。
(電話 大阪(06)758-1231 呼出)

援助名	募集開始	締切日
来日 (60年4月~61年3月分)	59年4月1日	59年11月30日
長期間派遣 (60年4月~61年3月分)	59年4月1日	59年11月30日
短期間派遣	出発月の4ヵ月前の15日が締切日 (例: 59年10月出発の場合 59年6月15日が締切日)	
学術交流集会 (60年4月~61年3月分)	59年4月1日	59年9月30日

新刊紹介

Theory of the Earth's Shape (Developments in Solid Earth Geophysics, Vol. 13)

V. DRAGOMIR, D. GHITĂU,
M. MIHĂILESCU, M. ROTARU
Elsevier Scientific Publishing Company, 1982
(A5判, 694頁)

本の標題から判断すると測地学における地球の形という特定分野のみを取扱っているように見えるが、そうではなく、測地学そのものの高度な教科書である。原著はルーマニア語で書かれていて、本書は1977の改定版の英訳である。末尾の文献表を見ると、英訳に際して、かなりの加筆が行なわれたようである。

本書の構成は29章からなり、6部にわけられている。第1部では、ポテンシャル論と、天文観測と重力観測を用いてのジオイドの決定法が述べられている。第2部では規準楕円体上での2次元測地学、第3部では天文観測と測地三角網観測との結合が論じられている。ここまですべて古典的測地学であって、本書の約6割があてられている。第4部では、人工衛星を有限距離にある規準点とする3次元測地学が議論されている。第5部では、主として人工衛星の運動を用いてグローバルな規準楕円体とジオイドの決定法が述べられている。第6部は、プレート運動も含む地殻変動の決定法が論じられている。

全体を通じて数式がかなり出てくるが、天下りではなく基本式からの導出がかなりいねいに述べられている。しかし筆者の専門とする人工衛星の力学が議論されている第25章は、Levallois and Kovalevskyの一般測地学の第4部の丸写しに近く、かなり意味不明の式や文章が散見される。測定・計測技術についての記述はほとんどないが、観測の原理については、多数の図を用いて、わかりやすく説明されている。

本書は、面上の2次元測地学から、人工衛星・月を用いた3次元測地学へ、さらに時間的変動を考慮した4次元測地学へと発展しつつある測地学の総合的教科書である。

(木下 宙)